

　　　石川県肢体不自由児協会

　　　石川県肢体不自由児者父母の会連合会

　　　　　会　長　　松　田　郁　夫

令和６年能登半島地震から半年余りが経ちました。今も避難生活を強いられている会員ご家族や被災された皆様にはお見舞い申し上げます。

また、猛暑の中、復旧作業にご尽力されている皆様には心から感謝を申し上げます。

一瞬の土砂崩れで家族を亡くした友人、県外から移住してきて始めたお店も、自宅も津波で流されてしまった知人。自然災害の恐怖を思い知らされました。でも、彼も彼女も、もう失うものは何も無いと、前を向いて進んでいます。本当に頭が下がります。

東日本大震災で被災した高校生の記事を目にしました。彼は〝何もすることがない時に本や筆記用具の支援を受けてとても有難かった。しかし、支援物資の中には汚れた古着もあり、被災者というだけで見苦しい身なりをしなければならないのか、と傷ついた〟と。送る側の気持ちは十分に理解出来ますが、現在はネットで注文すれば新しい衣類でもなんでも被災地に届けることができる時代です。処分に困るようなものは送らないほうがいい。

先日、生活用水が不足している避難所で、ペットボトルの水で手を洗っていいかと市の職員に尋ねると、「マスコミに見られないようにお願いします」と言われたそうです。被災者は被害者です。周囲に気兼ねする必要はありません。能登の人たちの気質でしょうが、もっともっと声を上げてほしいと感じます。私たちが出来る限りの支援を続けていきたいと思います。そして、今回何が起きたのか被害を小さくすることはできたのか、という事実を、この先南海トラフをはじめとする大きな災害が起こりうる恐れのある全国の人たちに伝えて、役立ててもらうことが今回多くのご支援をいただいた方々への私たちの使命だと思います。会員皆様方の尚一層のご協力をお願いします。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和６年７月